

日本教育心理学会 第66回総会
学会企画シンポジウム 6

インクルーシブ教育と心理学
——差別の現実から深く学ぶ——

資料目次 (PDFのページ)

◆ 話題提供

栗田季佳	2~10
北原モコットウナシ	11~27
呉 永鎬	28~34
岸 航平	35~49

排除・抑圧と向き合うインクルーシブ教育に心理学はどう応えるか

栗田季佳
三重大学

インクルーシブ教育前史

- 戦後，排除や隔離に対する反発の声が世界中で挙がる
 - アメリカにおける黒人の公民権運動
 - 知的・身体障害者施設の劣悪な環境，力を奪われる管理運営
 - 障害児の分離教育への異議申し立て
 - イタリアにおける精神病院の解体と障害児のフル・インクルージョン
 - 植民地から独立した第三世界の教育システムの不足，不就学，識字率の低さ
- 万人のための教育（EFA: Education for All）
- 人権としての教育（世界人権宣言，子どもの権利条約）
- インクルーシブ教育（サラマンカ宣言，障害者権利条約）

インクルーシブ教育の定義

- Inclusion is a process that helps **overcome barriers limiting the presence, participation and achievement of learners.**
(UNESCO, 2017)
- インクルージョンには、対象となる年齢層のすべての生徒に、公正な参加型の学習体験と、彼らのニーズと選好に最も合致した環境を提供することに貢献するというビジョンを伴った、**障壁を克服するための教育内容、指導方法、アプローチ、組織体制及び方略の変更と修正を具体化した制度改革のプロセス**が含まれる（注4）。たとえば組織、カリキュラム及び指導・学習方略などの構造的な変更を伴わずに障害のある生徒を通常学級に配置することは、インクルージョンにならない。さらに、統合は分離からインクルージョンへの移行を自動的に保障するものではない。」（障害者権利条約一般的意見第4号

偏見，差別，ステレオタイプを扱う心理学

- 「差別とは一般に**偏見がかった (biased) 行動**のことであり、他の集団を直接的に弊害をもたらしたり不利益に扱う行動だけでなく、自集団を不公平にひいきする（他の集団を相対的に不利にさせる）ことも含む。」（Dovidio, Hewstone, Glick, & Esses, 2012）
- 心理学では「差別」のうち，対人行動や判断に焦点を当てる。
- 個人に内面化された態度を主題化する（偏見，ステレオタイプ，個人差，集団間認知，社会的アイデンティティ・・・）。

ラディカルな批判

- 外部からもさることながら、心理学の既存のアプローチに対する心理学内部からの批判
 - 心理学が偏見やステレオタイプを扱うことによって、白人特権に基づく不平等と差別の現実から目をそらさせ、抵抗を無力化させている (Durrheim, 2023)
 - 暗黙のバイアスはホワイト・フラジリティから特権階級を守り、制度に変更を加えない口当たりのよい説明でしかない (Granzka, 2022)。
 - 心理学の実験に取り入れられ、研究者によって行われてきたセクハラの実態 (Young & Hegarty, 2019)
- フェミニズム心理学, ポストコロニアル心理学, 黒人心理学 (Black psychology), 心理学における構築主義の導入

批判心理学運動

心理学は「マイノリティ」をどのように 生み出してきたか

- 部落やアイヌなど日本固有の差別を（ほぼ）扱わず、不可視化してきた
- 知能検査をはじめとした様々な心理検査による人々の選別、理解の固定化
- 性差や人種差、差異を前提に調べられる研究
- 無意識の抑圧、精神病理としての同性愛の扱い
- アンケートの性別の選択肢「男女」
- 一部の人に参加できない研究手続き
- 普遍的な人間の心理 → No, 研究対象の偏り（WEIRD 奇妙な心理学; Western, Educated, Industrialized, Rich & Democratic Psychology）
- 研究の非対称性「する－される」≠「ともに」（かわいそうな被差別者を救済する）

インクルーシブ教育に向けて— 差別を研究する心理学から差別と向き合う心理学へ

- 心理学が排除／周辺化してきた対象
 - 心理学理論にみられるバイアス（男性参加者のみによって構築されたコールバーグの道徳理論，アッシュの同調実験・・・）
 - 参加者中の障害児は言及されないか除外される（e.g., Feldman, Battin, Shaw, & Luckasson; 2013）
 - グローバルサウスの心理学
- 心理学によってどのように描かれてきたか
 - 「偏見，ステレオタイプ」と称されない偏見やステレオタイプ
 - 差異化，本質化，逸脱としての位置づけ。
- 格差，差別，排除や抑圧をどう扱ってきたか
 - 社会心理学を典型とする一部の領域。科学者というポジション
 - 個人的現象

いくつかの提案

- インクルーシブ教育が通常教育の改革を迫るように、メインストリームの心理学の改革が必要ではないか。
- ステレオタイプや偏見を心の中に閉じ込められた現象から拾い上げ、現実の差別を扱う研究へ
 - ステレオタイプや偏見も現実の社会に存在し、指摘される。
 - 状況の中にある人々の心（例：差別だと思ったけれど言えなかった）
- 心理学そのものの知の抑圧性や差別性
 - 心理学の「心」の理論における排他性—社会的カテゴリーの本質化
 - 普遍化への慎重さ—文化や歴史，経験を回収しないこと
 - 問題の個人化
- 心理学者も社会的主体の一人であるという自覚
 - 心理学の成果の社会的影響とそれに対する責任
 - 心理学者の特権，権力性

考えねばならないこと

- 倫理審査のような形式的意味ではない、心理学の「実践」についての倫理的点検作業
 - 研究、心理学教育や公認心理士資格のあり方
- 研究者を取り巻く社会的環境や文脈
 - 競争的資金の獲得，限られた研究ポスト
 - 短期で挙げられる，目に見える業績。社会的要請に応える研究
 - 新自由主義，コミュニティの崩壊，情報化社会の人間観
- 心理学研究の歴史的視点
 - 科学のアイデンティティー—心理学者のバウンダリーワーク
 - 西洋心理学への偏重—憧れと劣等感

2024年9月16日

日本教育心理学会

つないでほどく アイヌ・和人(和民族)

北海道大学アイヌ・先住民研究センター

北原モコットウナシ

はじめに

- 北海道・千島・樺太のアイヌ民族は、明治期に日本国に統合。
現在ではその多くが日本国籍。
- 1870年代末からアイヌ児童向けの教育開始。
1899年の旧土人保護法によって就学が進められた。
- 当初は和民族児童とは別学、1937年旧土人学校全廃、以後共学。
和民族の教員・児童による苛烈な差別がトラウマを形成。
アイヌ語・アイヌ文化の放棄が加速する

これを受け

アイヌ：民族性の表出を抑える

学校：「個人情報保護」等を理由に

回避的レイシズム＋カラーブラインドネス的な姿勢

80年代からアイヌ文化学習と自然・環境を結び付ける傾向が強まる

アイヌについて取り上げない／消極的になる要因 西村(2012)より

()内は引用者の補足(白老町の教員・教育委員会からの意見)

- 「子どもの発達段階を考えると無理」「低学年には難しい」
「教科書にない」「必要性を感じない(当事者いない、興味ない)」
「日数の確保が困難(→アイヌだけ特別扱いはできるか)」「その他」
注)アンケート項目にあった「管理職や保護者の理解が得られない」は
2回の調査でも0～1%であったため、割愛した。(白老では多い)

+

「デリケートな問題のようでどのようにとりくんだら良いかわからない」
→どんな属性の児童・教職員も組織内に「いる」前提で考える
→差別に対するスタンス「LGBTに対する差別を許さない」

アイヌ民族教育＝文化学習

- 2020年1月31日
「札幌市人権教育フォーラム」(札幌市教育委員会主催)
アイヌ文化学習の主たる目標: 自然と共生する価値観を学ぶこと
具体的には自然の資源利用など。
- 札幌市が実施したアイヌ施策推進法による補助金事業:
「アイヌ文化の魅力発信」を柱。
具体的には札幌雪祭りにおけるイベント催行など。
→アイヌ文化は和人向けの教養か、観光資源として位置づけられている。
自然、神、食、楽器、歌舞が好まれ、言葉・歴史は忌避される傾向。
→「伝統文化」教育は、アイヌの問題全体を改善することにならない。
本質化が進むとともに、学習主体としてのアイヌが抱える問題から視線が逸れる。

文化学習の限界

- アイヌ児童が教育を受ける権利としては重要
しかし、課題はそれだけではない
- アイヌ民族の現状＝和民族による加害の歴史・現状、
和民族の特権性(後述)に目が向かない
いたずらに特殊視すること、過去のものとして捉える懸念
→セルフスティグマ・喪失感の強化

教育カリキュラムの非対称性

和民族学習

国語
算数
理科
社会
図工
道徳
家庭科
体育

見えないカリキュラム
(給食・朝礼...)

1年生
～
6年生

(4年生以上
は1015コマ)

アイヌ学習

社会
総合

3年生
4年生

(あれば
数コマ)

教材記述の非対称性

- アイヌ: 民族名明記、時代を限定・過去形、曖昧な描写
- 和民族: 和民族中心の記述
 - 民族名明記せず(和民族をベースとする記述のため)
 - 自らの民族性について無自覚
 - 「最も古い〇〇」などの表現を通じ、北海道史＝和民族史と誤誘導する記述
- 社会: 両民族の関係は記載なし、
 - 植民地化の説明もなく「開拓」が用いられる
 - アイヌの世界から和民族への世界へと自然に移行した印象を与える
 - 差別、ヘイトスピーチについての記載・取り扱いなし

2020年版（改定前は多様性の言及なし）

札幌市社会科副読本

わたしたちの札幌

4年上



監修・北海道社会科教育連盟 発行・北海教育評論社

北海道には527万人、札幌市には197万人が住んでいます。古くからくらししているアイヌ民族、本州から移り住んできた和^わ人、大人や子ども・お年より、障^{しょう}がいのある人、日本でくらす外国の人、いろいろな考え方もつ人、様々な人がいます。そして、みんながより良^よくくらすことができるよう、協^{きょうりやく}力や努^{どりやく}力をしています。北海道や札幌市は、みんなで作^{つく}るわたしたちの大切なまちなのです。

この本では、「北海道の広がり」、「住みよいくらしをつくる」、「きょう土の伝^{でん}統^{とう}・文化と北海道をひらいた人々」について学習していきます。分からない事やもっと知りたいと思うことを、仲^{なかま}間と協^{きょうりやく}力して調べたり、話し合^あったりして学習を進めていきましょう。



わたしたちの北海道



空から見た札幌市

和民族中心史

北方りょう土



羅臼町の海岸から見た国後島



北方りょう土

北海道の東に、根室海峡をはさんで、歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島があります。(根室半島の納沙布岬と歯舞群島の貝殻島とは、わずか3.7キロメートルしかはなれていません。)

北方りょう土とよばれるこれらの島は、もともとは日本のりょう土でした。そこには、多くの日本人が住み、漁業を中心にくらしていました。

しかし、太平洋戦争の後にソビエト連邦(今のロシア連邦)にせんりょうされ、日本人は一人残らずひきあげさせられました。

日本は、早く北方りょう土を返してほしいと、ロシア連邦に対して強くもどめています。

(3) 主な市の様子

北海道には、およそ527万人が住んでいます。札幌市は、人口がおおよそ197万人で、北海道第1位、全国でも5番目のとても大きな都市です。

北海道には、札幌市のほかにも、大きな市がいくつかあります。

旭川市は、上川盆地にあり、道北地方の中心になっています。人口はおおよそ33万人で、道内で第2位です。駅前通りは、日本で初めてつくられた買い物公園になっています。旭川市は、旭山動物園や家具などの木工品が有名ですが、農業もとてもさかんなところではあります。

函館市は、渡島半島の南のはしにあり、道南地方の中心になっています。古くから港町として開かれ、栄えてきました。



旭山動物園 (旭川市)



函館港

和民族中心史

和民族中心史



姥神大神宮渡御祭の様子



みこしの様子

●昔から続く道内の祭り

北海道内では、たくさんの祭りが行われています。その中で、最も古い祭りと言われていたものに江差町の「姥神大神宮渡御祭」があります。この祭りは、みこしの後に続いて、「山車」とよばれる武士などの人形を置いたごうかなかざりの台車が、13台も町内をねり歩くのが持ちようです。山車ごとにいろいろなおはやしが聞こえ、とてもにぎわいます。また、この山車は、各町内会でほぞんしたり、管理したりしています。

祭りには多くの町民が参加するだけでなく、町をはなれた人がもどってきて参加したり、観光客が来たりして、祭りの期間は人口約8千人の町に何倍もの人が集まります。

主語として和民族を記載しない(主体は和民族であることを当然視)

●長く続く姥神大神宮渡御祭

江差町に姥神大神宮という神社があります。昔、寒さで作物がとれず、食べ物がなくて亡くなる人も出た時代がありました。そのときに、一人のおばあさん(姥)が、江差でニシンをとれるようにして人々を救ったという伝説をもとに「姥神大神宮」ができたと言われています。

今から370年ほど前に、江差の人々がニシンの大漁を神様に感しゃしたのが姥神大神宮渡御祭の始まりとされています。今も祭りで使っている最も古いみこしは約320年前に、山車にかざられている最も古い人形は約250年前に作られたと言われています。大切にほ管し、しゅうふくして使い続けています。



姥神大神宮



山車

近代以前の生活

2 アイヌ民族の昔の暮らしと今につながる文化

● 暮らしの様子

北海道はアイヌ語で「ヤウンモシリ」と言い、長い間、アイヌ民族の世界でした。今から200年前(江戸時代)のころには、札幌やその周りで、南の和人とのお互いもさかに行われるようになってきました。

また、アイヌ民族は、山や海・川、木や草、けものや鳥・魚、そして人間がつくった道具など、自分たちの身近にある、いろいろなものを神と考えるようになりました。神々のまもりと食料があってはじめて、安心したくらしができるので、動植物を神として大切にすることは自然を大切にすることにつながり、取りすぎたはいけないという考えを伝えてきました。



神へのいのり



しかをとる

● アイヌ民族の祭り

アイヌ民族の暮らしの中には、カムイノミとよばれる、いろいろなお祭りがあります。その中の「カムイチュプノミ」は、川に上ってくるさけがたくさんとれるように神にいのりをするために行われます。

丸木舟に乗って川に出て、もりでさけをとります。とったさけの頭を「イサバキツニ」という神聖な木のぼうでたたき、とどめをさします。たたかれたさけは、神の国にもどり、また川にもどってくる信じられているのです。人たちはたくさんのおさけがとれるようにいのりをささげ、歌をうたい、おどりをおどって、神の国へ送り返すのです。

一時はなくなりましたが、40年ほど前からまた行われています。



さけをとる様子



イサバキツニ

植民地化に触れない

改定前の記述

「昔から今へと続くまちづくり」(p.46)

「大きな木がしげる原野の中をくまやしかが歩き、秋には小さな川にもさけがあふれるように上ってきました。そして、あちこちの川の近くにアイヌの人たちがくらしていたといいます。そんな札幌に、和人がうつり住むようになり、原野を開き、家を建て、畑をつくりました。うつつてくる人も次々とふえ、まちができました。これらの人びとが、どんな願いをもち、どのような努力をして、まちづくりをしてきたのか調べましょう」

アイヌ民族：歴史と現在

—未来を共に生きるために—



公益財団法人アイヌ民族文化財団

「伝統楽器」や動物



固定的文化像

アイヌ文化の年代・内容を限定



アイヌ文化の時代の想像図



写真2-8：ニシン漁のようす
だが、アイヌの人たちを働かせたのか。



写真2-9：天然痘の予防接種をしているようす

2 アイヌ文化の精神を今に生かす

これまで見てきたように、アイヌ民族の歴史や文化は遠い昔のものではなく、今も私たちのすぐそばにあって息づいています。

日本の文化も、古い時代から中国や朝鮮といったアジアの国々をはじめ、ヨーロッパの国々からたくさんの文化を取り入れて発てんしてきました。

21世紀をむかえた現在、その時代とは比べものにならないほど日本の社会は豊かになりました。しかし、その一方で、人と人の結び付きが弱くなったり、自然環境が破壊されたり、戦争や貧^{まず}しさに対する不安といった大きな問題が起きています。

このような時代の中で人びとは、だんだんと明らかにされてきたアイヌ民族のものの考え方や生き方にふれ、これから生活していく上で「学ぶものがたくさんあるのではないか」と考えるようになりました。

そこで、アイヌの人たちの、自然や社会への接^{せつ}し方、アイヌ文化の精神^{せいしん}が今の時代に必要とされているわけをいっしょに考えてみましょう。

教員養成・教育実践の課題

- 養成：多民族主義・多文化主義的な教育を受けていない
 - 教職員を含め、学校は和民族の場所として語られる（高リスク）
 - 教職員は自覚はないが和民族として
 - 和民族児童に語ることを前提としている
 - 「開拓」などを当然、自然なものと思なす
 - 植民地化の歴史やトラウマについての知識がない
 - 教員によるマイクロアグレッション、アウティング
 - 差別・いじめの防止・発生後の対処やケアは未検討

アイヌ児童に対するインクルーシブ教育の前提

- 安全確保：差別・マイクロアグレッションの防止・対処・ケア
教育内容の中立化、脱植民地化を進める
- 承認：ステレオタイプの存在を認識し、教育からとり除く
アイヌ児童の現状を承認する

→これらを実現するため、

- ①教職員が植民地化の歴史を知る
歴史を複眼的な視点で教育するための研究
- ②マジョリティ特権の自覚と抑制、教育への反映
- ③「思いやり」ではなく権利侵害を止めることに目標を設定

参考文献

- 植木哲也2019a「一〇一五人が眠るアイヌ納骨堂」『もうひとつのキャンパスマップ』寿郎社。
2019b「林善茂によるアイヌ差別講義事件」『もうひとつのキャンパスマップ』寿郎社。
- 小熊英二 1995『単一民族神話の起源』(新曜社)
- 小山田伸明2019「『国際社会』における新渡戸稲造」『もうひとつのキャンパスマップ』寿郎社。
- 河西瑛里子2018「スピリチュアリティのもたらす癒し—トラウマからの回復と人と人のつながり」
『トラウマを生きる』京都大学学術出版会。
- 北原モコットウナシ2021『アイヌ・先住民研究』1、北海道大学アイヌ・先住民研究センター。
- 金明秀2018『レイシヤルハラメントQ&A』(解放出版)
- 窪田幸子2021「先住民との和解に向けて—謝罪・補償とヒーリング—」
『アイヌ・先住民研究』1、北海道大学アイヌ・先住民研究センター。
- 近藤祉秋2021「北米先住民研究における歴史的トラウマ論の展開」先住民と大学の関係を考える—カナダの事例から—
『アイヌ・先住民研究』1、北海道大学アイヌ・先住民研究センター。
- ツァゲールニク・タッチャナ2021「トラウマの概念をアイヌの文脈にあてはめる: 比較と考察」
『アイヌ・先住民研究』1、北海道大学アイヌ・先住民研究センター。
- 谷本晃久2019「コトニ・コタン」『もうひとつのキャンパスマップ』寿郎社。
- 張易臻2019「新渡戸稲造と植民地台湾の農民」『もうひとつのキャンパスマップ』寿郎社。
- 辻康夫2013「多文化主義論の諸類型の検討—複合的アプローチにむけて—」『法政理論第45巻第3号』新潟大学。
2021「マイノリティ言語の地位をめぐる考察: リベラル多文化主義論の有効性をめぐって」
『北大法学論集』71(6)、北海道大学。
- 西村浩充2012「アイヌ民族の学習」をすすめるために」『部落解放研究』№196。
- 番匠健一2019「佐藤昌介の植民学講座と北海道で植民地主義を問うことの困難」
『もうひとつのキャンパスマップ』寿郎社。

差別の歴史性・構造的性

—朝鮮学校へのヘイトクライムを事例に—

鳥取大学 吳永鎬（お・よんほ）

- | | |
|-------------------------|------|
| 1. ヘイトスピーチ／ヘイトクライム | (5分) |
| 2. 制度的差別と民間の差別——被害生徒の訴え | (5分) |
| 3. 差別の歴史性——植民地主義とその継続 | (5分) |
| 4. 人権あるいは命と尊厳の保障、そして教育 | (5分) |

1. ヘイトスピーチ／ヘイトクライム

- 特定の属性を理由として行われる言葉による差別表現／犯罪

京都朝鮮学校襲撃事件

- ✓ 2009.12.4 11人が学校に押し寄せ、器物を損壊し、罵詈雑言を浴びせた。京都朝鮮第一初級学校が公園を不法占拠していると主張。同月、学校側が刑事告訴
- ✓ 2010.1.14 学校付近での70余名のデモ行進
- ✓ 2010.3.28 地裁の街宣禁止の仮処分を無視して行われた100余名のデモ行進
- ✓ 2010.06.28 学校側、民事訴訟を提起
- ✓ 2010.08.10 在特会幹部ら4人逮捕→2011.4.21刑事裁判1審有罪判決→のち確定
- ✓ 2013.10.07 京都地裁判決 [1,226万円+街宣差し止め](#)
- ✓ 2014.07.08 大阪高裁判決 控訴棄却（→控訴人側上告）
- ✓ 2014.12.09 最高裁上告棄却決定 確定

クローズアップ現代「ヘイトスピーチを問う——戦後70年 いま何が」（2015年1月13日放送）、NHKかんさい熱視線「傷つけられた子どもたちは今——ヘイトスピーチから6年」（2015年10月30日放送）より

2. 制度的差別と民間の差別——被害生徒の訴え

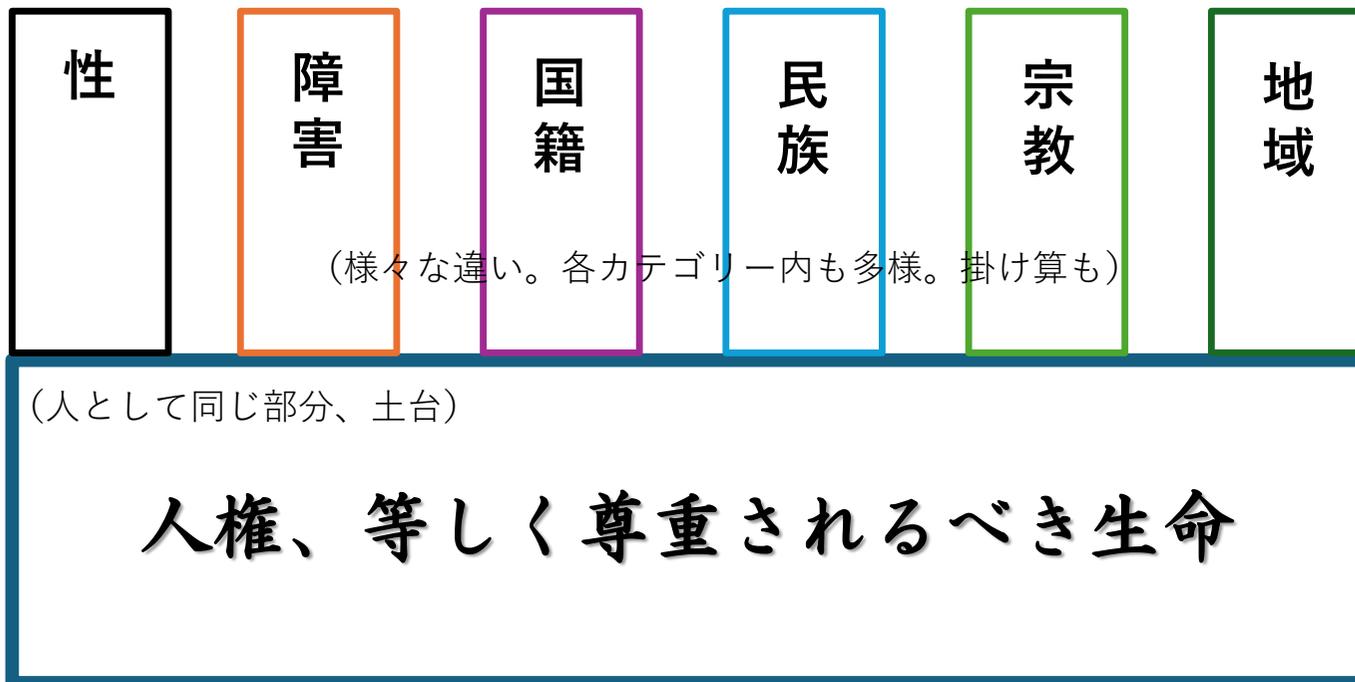
2019年11月

- 構造と主体の相互規定
- 国連の各種人権条約→行為、法律、政策、慣習

3. 差別の歴史性——植民地主義とその継続

- **植民地主義**：文明－野蛮、進歩－停滞、成熟－幼稚、清潔－不潔、勤勉－怠惰、近代的－未開……といったように、遅れた存在として支配される側を規定し、それを是正・改善する存在として自らを位置づけ、**これまでのあるいはこれからの侵略や支配、暴力を正当化する思想**
- 「植民地主義というのは、単に領土的・主権篡奪的な支配だけをさすのではないし（それゆえ政治的に「分離」していても植民地ではありうる）、また単純な収奪や搾取だけのことなのでも決してなく、むしろ人間のカテゴリー化を本質属性としながら、それによって差別的な秩序を構成して支配しようとする統治形式であり、この統治はそれゆえにこそ**諸個人の社会意識や自己認識**（アイデンティティ）にまで深く食い込んで**支配関係をそこに刻印する**ものなのである」（中野ほか編2006）
- こうした制度と思想の歴史的展開、さらに1990年代以降の国際政治情勢——とくに北朝鮮に対する日本政府の制裁政治の開始（在日朝鮮人の人権が制裁対象に）——と襲撃事件とは無関係ではない。実際、ヘイトスピーチの内容は、表現は違えど、日本政府の在日朝鮮人政策のほとんど焼き直しである。

4. 人権あるいは命と尊厳の保障、そして教育



違い、差異：人々の間にある差異を認めることから始めなければならない。様々な差異は、現実的には平等に配列されておらず（水平的多様性ではなく）、序列化されており（垂直的多様性）、そのような社会構造を変革していかなければならない。差異を強調しすぎると、人権・生命が脅かされる。

同じ部分：人間として同じ部分。まさに人権侵害や生命が脅かされている時、尊厳が保障されていない際に「同じこと」の強調は有効である。しかしこちらを強調しすぎることによって、属性に基づく経験や生、共闘の歴史等を軽視することにつながる。

※人権の基盤には「生命尊重の思想」、すなわちあなたと私の命は等しく大切であるという思想がある。そうでなくては、人が人であることで付与される人権という概念が成り立たない。人権が近代の要件であると言われるゆえんでもある。

同じ部分を強調しすぎて違いを無化するのでもなく、違いを強調しすぎて同じ人であることを忘れてもならない。私たちは同じで異なる。両側面に目を向けたうえで、生命の尊重、尊厳ある生を保障する仕組みをつくる

参考文献

- アルベール・メンミ著、白井成雄・菊地昌実訳（1968=1971）『差別の構造——性・人種・身分・階級』合同出版
- 呉永鎬・坪田光平編（2022）『マイノリティ支援の葛藤——分断と抑圧の社会的構造を問う』明石書店
- 河野哲也（2011）『道徳を問いなおす——リベラリズムと教育のゆくえ』筑摩書房
- 齋藤純一（2017）『不平等を考える——政治理論入門』筑摩書房
- 徐京植（2002）『半難民の位置から——戦後責任論争と在日朝鮮人』影書房
- 田中宏（2013）『在日外国人 第三版』岩波書店
- テッサ・モーリス＝スズキ（2013）『批判的想像力のために——グローバル化時代の日本』平凡社ライブラリー
- 中野敏男、波平恒男、屋嘉比収、李孝徳編（2006）『沖縄の占領と日本の復興——植民地主義はいかに継続したか』厚徳社
- 中村一成（2014）『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件——〈ヘイトクライム〉に抗して』岩波書店
- プリーモ・レーヴィ著、竹山博英訳（1958=2017）『これが人間か——アウシュビッツは終わらない 改訂完全版』朝日新聞出版
- 師岡康子（2013）『ヘイトスピーチとは何か』岩波書店
- 梁英聖（2020）『レイシズムとは何か』筑摩書房
- ロビン・ディアンジェロ著、貴堂嘉之監訳、上田勢子訳（2018=2021）『ホワイト・フラジリティ——私たちはなぜレイシズムに向き合えないのか？』明石書店

日本教育心理学会第66回総会
インクルーシブ教育と心理学——差別の現実から深く学ぶ——

心理学は差別と向き合ってきたか

——同性愛に対する差別から考える——

金子書房 編集部

岸 航平

shore9117@gmail.com

基本事項 (1) セクシュアリティの諸側面

代表的なものとして、以下があげられやすい。

- ジェンダーアイデンティティ
自分の性がなんであるかというアイデンティティ
- 性的指向
好きになる性、性的欲求を抱く性
- 出生時に割り当てられた性
出生時に主に外性器の形態に基づいて医師により割り当てられる性
- 性表現
行動や外見など、社会的に表現される性

基本事項 (2) 性的マイノリティ

非規範的なセクシュアリティをもつ人、例えば

- トランスジェンダー：
ジェンダーアイデンティティと出生時に割り当てられた性が一致しない人 (⇔シスジェンダー)
- 同性愛者：
ジェンダーアイデンティティと同一の性に対する性的指向をもつ人 (⇔異性愛者)

セクシュアリティの間には序列があること (インターセクショナルリティ) に注意 (Rubin, 1984)。

発表者のアイデンティティ

発表者はシスジェンダー男性同性愛者としてのアイデンティティを持っています。

アイデンティティという考え方は、特定の属性を不変で固有の性質を備えたものとみなす本質主義的な見方につながるかもしれません。

一方で、特定のアイデンティティを持って生きてきたからこそ見えるものもあると考えます。

今日は一シスジェンダー男性同性愛者として経験してきたこともふまえて差別について考えたいと思います。

性的マイノリティの若者の健康状態

- 若年（平均18歳以下）のLGBと性的マジョリティを比較したメタ分析によれば、LGBの自殺未遂のオッズ比は2.92、抑うつ症状は $d=.33$ （Marshal et al., 2011）。
- 直近の日本の調査では、10代のLGBTQの回答者（ $n=627$ ）は、過去の全国調査と比べて自殺念慮を経験した割合が3.8倍、自殺未遂の割合が4.1倍であった（ReBit, 2022）。
- 2019年のLGBTQを対象とした全国調査では、10代で平均47.4%、20代で平均56.8%が学齢期にいじめを経験したと回答した（特にMTFが際立って高い、日高, 2021）。
- 状況は改善してきたが、困難に直面する人はいまだ多い。
- いったい何がこうしたギャップを生むのか？

マイノリティストレス

- こうしたマイノリティとマジョリティの間のギャップを説明しうる理論的枠組みとして、Meyer（2003）によるマイノリティストレス理論がある。
- マイノリティは、マジョリティが経験するストレス要因に加え、マイノリティ特有のストレス要因を経験するため、健康上のギャップが生まれると考える。
- Meyer（2003）は同性愛者のマイノリティストレスとして、外的なもの（差別）と内的なもの（内在化された偏見、クローゼットでいること、拒絶の予期）をあげた。
- 同性愛者のマイノリティストレスはどこから来るのか？

構造的イデオロギーとしての異性愛主義

- Herekは同性愛者をとりにくく差別的で構造的なイデオロギーを指し、異性愛主義 Heterosexism と呼んだ。
- 個人レベルの差別にとどまらず、法や制度、メディアといった文化的なレベルにも異性愛を規範とする価値観が浸透していることを指摘 (Herek et al., 2009)。
- 異性愛主義的な社会で生きること、非異性愛的な事象に対して差別的にふるまったり、ネガティブな態度が内在化されたりする (Herek et al., 2009)。
- 同性愛者が直面する困難は、社会構造に起因する側面が多分にある。

発表者の経験

- テレビの「オネエ」タレント、それを見て「気持ち悪い」という父親
- 「男女（おとこおんな）」と呼ばれた同級生
- 「思春期は異性への関心が芽生える」とする保健の教科書（多様な性に言及する教科書が検定を通らない）
- 「同性を好きになる人もいるというが、できれば子どもを産んでほしい」という体育教師
- セクシュアリティを隠し、自殺を考え続けた高校時代
- 当事者を助けたいという気持ちから、心理職を目指す

問題はどこにあるのか？

- こうした現状について、どのように考えればよいか？
- マイノリティが社会に適応できるよう、ケアすること？
- たしかにマイノリティのケアは必須。
- しかし、マジョリティの規範の中で「狂わずに」生きられることはそれほど望ましいことなのか？
- むしろ、マイノリティへのケアだけが注目されると、抑圧的な構造はますます不可視化され、現状が維持・再生産されてしまうおそれがある。
- 問題とされるべきは、マイノリティではなく、抑圧的な社会構造の方ではないか。

偏見研究の強みと問題点 (1)

- 翻って、心理学研究はどうか？
- 心理学において差別を考えるうえでまず議題に上がるのが個人が抱く態度・偏見。
- この発表では差別の構造的な性質を強調してきたが、個人レベルでの差別的行動ももちろん問題。
- 個人の態度が社会を規定する側面もある。
- したがって、偏見研究、ならびに偏見の低減は少なくとも部分的には差別解消に寄与する。
- しかし、問題点も……

偏見研究の強みと問題点（2）

- 1) 態度や偏見ばかりが注目されると、差別が個人の「心」の問題に矮小化される（Walker & Wang, 2022）。
 - － しばしば行われる、大学生を対象とした横断調査研究
 - － マイノリティが今・ここで直面している問題はしばしば扱われない。当事者の不在。
 - － 差別の構造的な側面が巧妙に不可視化される。
- 2) 差別の社会構築的性質が無視されている。
 - － 差別は複雑な相互作用、文脈の中に立ち現れる。
 - － 偏見はそこに「実在」する？「測定」「低減」とは？
 - － 偏見→差別という、あまりに個人化され単純化された差別観を再生産していないか？

差別研究と研究者のポジショナリティ

- これまで心理学・精神医学は「同性愛は異常」というポジショナリティから同性愛者に関わってきた。
 - 当事者による抗議を受けるまで同性愛を異常と位置づけてきたアメリカ精神医学会（DSM-II第7刷で削除）
cf. トランスジェンダーの脱病理化
 - 同性愛を異性愛に変える「心理療法」
 - 同性愛の「原因」を「科学的」に探究する研究
- 極めてありふれた関係の1つにすぎない同性愛になぜ「同性愛」というラベルをつけ、区別するのか？
- 科学の中立性、客観性は誰のためにあるのか？

これからの差別研究

- マイノリティの経験がより直接扱われる研究
 - 当事者研究、現象学、オートエスノグラフィなど、マイノリティの経験知から差別を考える（e.g. Cornell & Kessi, 2020; ヒューズ, 2020）。
- 社会変革のための研究（レビューとして楠見, 2024）
 - 参加型アクションリサーチなど、マイノリティと協働して社会変革を目指す研究。
 - 中立性・客観性からあえて離れ、批判的でラディカルなポジショニングに立つことが必要。

発表の限界

インターセクショナルリティ

- 発表者がシスジェンダー男性同性愛者という性的マイノリティの中でも最も特権をもつアイデンティティをもっていること。
- 経済的に恵まれた家庭に生まれ東京で育ったこと、名の知れた大学・大学院にまで通えたこと。
- セクシュアリティや置かれた状況が異なれば、まったく異なる（そして時に組み合わせさせた）抑圧を経験する。

引用文献

- Cornell, J. & Kessi, S. (2020). Discrimination in Education. In C. Tileagă, M. Augoustinos, & K. Durrheim (Eds.), *The Routledge International Handbook of Discrimination, Prejudice and Stereotyping*, (pp. 197-210). Routledge.
- Herek, G. M., Gillis, J. R., & Cogan, J. C. (2009). Internalized stigma among sexual minority adults: Insights from a social psychological perspective. *Journal of Counseling Psychology*, 56, 32-43.
- 日高 庸晴 (2021). LGBTsを対象にした全国インターネット調査2019の結果から 現代性教育ジャーナル, 122, 1-8.
- ヒューズ・フィリップ (2020). なぜ自分のセクシュアリティを口に出すのか？—経験からのセクシュアリティ再考 稲原 美苗・川崎 唯史・中澤 瞳・宮原 優 (編) フェミニスト現象学入門—経験から「普通」を問い直す (pp. 101-112). ナカニシヤ出版
- 楠見友輔 (2024). アンラーニング質的研究 新曜社
- Marshal, M. P., Dietz, L. J., Friedman, M. S., Stall, R., Smith, H. A., McGinley, J., Thoma, B. C., Murray, P. J., D'Augelli, A. R., & Brent, D. A. (2011). Suicidality and depression disparities between sexual minority and hetero-sexual youth: A meta-analytic review. *The Journal of adolescent health*, 49, 115-123.
- Meyer, I. H. (2003). Prejudice, social stress, and mental health in lesbian, gay, and bisexual populations: Conceptual issues and research evidence. *Psychological Bulletin*, 129, 674-697.
- 認定NPO法人 ReBit (2022). 【調査速報】10代LGBTQの48%が自殺念慮、14%が自殺未遂を過去1年で経験。全国調査と比較し、高校生の不登校経験は10倍にも。しかし、9割超が教職員・保護者に安心して相談できていない。PR Times. <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000031.000047512.html>
- Rubin, G. (1984) Thinking Sex: Notes for a Radical Theory of the Politics of Sexuality. In C Vance (Ed.), *Pleasure and Danger*, (pp. 267-319). Routledge & Kegan, Paul, London.
- Walker, I. & Wang, S. (2022). Implicit Bias. In C. Tileagă, M. Augoustinos, & K. Durrheim (Eds.), *The Routledge International Handbook of Discrimination, Prejudice and Stereotyping*, (pp. 197-210). Routledge.